

カーボンニュートラルの実現に向けて

吉野 彰

カーボンニュートラルに向けての決意表明

○ 2019年ノーベル化学賞授賞二つの理由

1. リチウムイオン電池の発明は現在の**Mobile-IT**社会の実現に貢献
2. リチウムイオン電池の発明は未来の**Sustainable**社会の実現に期待

○ Sustainable社会 = カーボンニュートラル

カーボンニュートラルの実現は**Sustainable**社会の根幹

○ イノベーションによりカーボンニュートラルの実現に貢献していきたい

産総研**GZR**センターをイノベーションのハブに

新しいライフスタイル・ワークスタイル に向けた取組・アイデア

○ 個人所有から共有への意識改革

共有はデジタルの世界では既に常識（クラウドの概念）

これからはモノの共有による環境負荷と個人費用負担の低減

○ 電気自動車(EV)搭載電池の活用

EV 100万台/年の普及は250GWh（発電所250基×1Hr）

車のゼロエミッション化と再エネ普及を同時に実現

○ 未来の車社会を象徴する言葉“CASE”が具体例

“C”：Connected（全ての車がネット経由で全ての情報共有）

“A”：Autonomous（無人自動運転）

“S”：Shared（車の共有）

“E”：Electric（車の電動化）